

招待講演

今、日本の医療人材教育が向かう IPW と IPE

東京医科大学病院シミュレーションセンター¹⁾、日本赤十字看護大学大学院²⁾、

司会：阿部幸恵¹⁾

演者：田村由美³⁾

IPW (Interprofessional Work) と IPE(interprofessional Education)、この2つの言葉は「鶏と卵」の関係にも似ているが、どちらが先かという関係ではない。この2つの用語はセットで用いるのがこの言葉の作者の強い願いである。これらの用語を日本に持ち込んだものとしては、言葉の拡散と浸透の状況をそう喜んでばかりいられない。IPWはチーム医療と同じ意味ではないことはチーム医療やチーム医療教育を英語に訳してみるとすぐにわかる。チーム医療は Team Medicine/Care、チーム医療教育は???である。演者は言語学者ではないし、むしろ言葉選びにはいつも四苦八苦している。しかし、IPW/IPEを世に送り出した Leathard A. の考えを、彼女から直接学んだ日本人として伝えることは重要だと考える。

IPWは、現在「多職種協働実践」と訳されることが多いので、その意味では新しいチーム医療と IPW の意味は同じと考えられる。しかし、協働という概念もまた抽象的で様々な使い方をするので、実際にどういう実践が協働なのかは千差万別である。その上、IPWの Work は、仕事をする中での学習をも意味している。IPW と IPE はセットで用いたい用語という所以である。一方、IPE は、英国で IPE を開発・牽引している組織「Center of Advanced Interprofessional Education: CAIPE」により定義され、2005年に開催された埼玉県立大学国際セミナーで、「IPE（専門職連携教育）は、複数の領域の専門職者が連携およびケアの質を改善するために、同じ場所でともに学び、お互いから学び合いながら、お互いのことを学ぶこと」と日本語に訳されている。IPE の定義の中に IPW にも関連する重要な事柄が含まれている。

さて、IPWのためのIPEという流れが加速している。特にWHOや米国の医学薬学教育改革の動きは日本の医学薬学教育に影響している。その上、ICTの教育活用

の発展が重なり、今やシミュレーション教育が IPE の教授方法の一つとして注目されている。保健医療福祉の実践現場の状況は複雑多様であるだけに、そのリアリティをどこまで再現したシナリオ・状況設定をするかがシミュレーション教育のカギであろう。

本日は、IPW/IPE 本来の意味を再度確認し、IPE 教授方法として IPE 先進国の北欧、英国、カナダ、オーストラリア、米国の教育研究者らとともに開発研究している HCTCOC(Health Care Team Challenge)の考え方と実践例を共有する。